

環境配慮型CCS導入検討事業

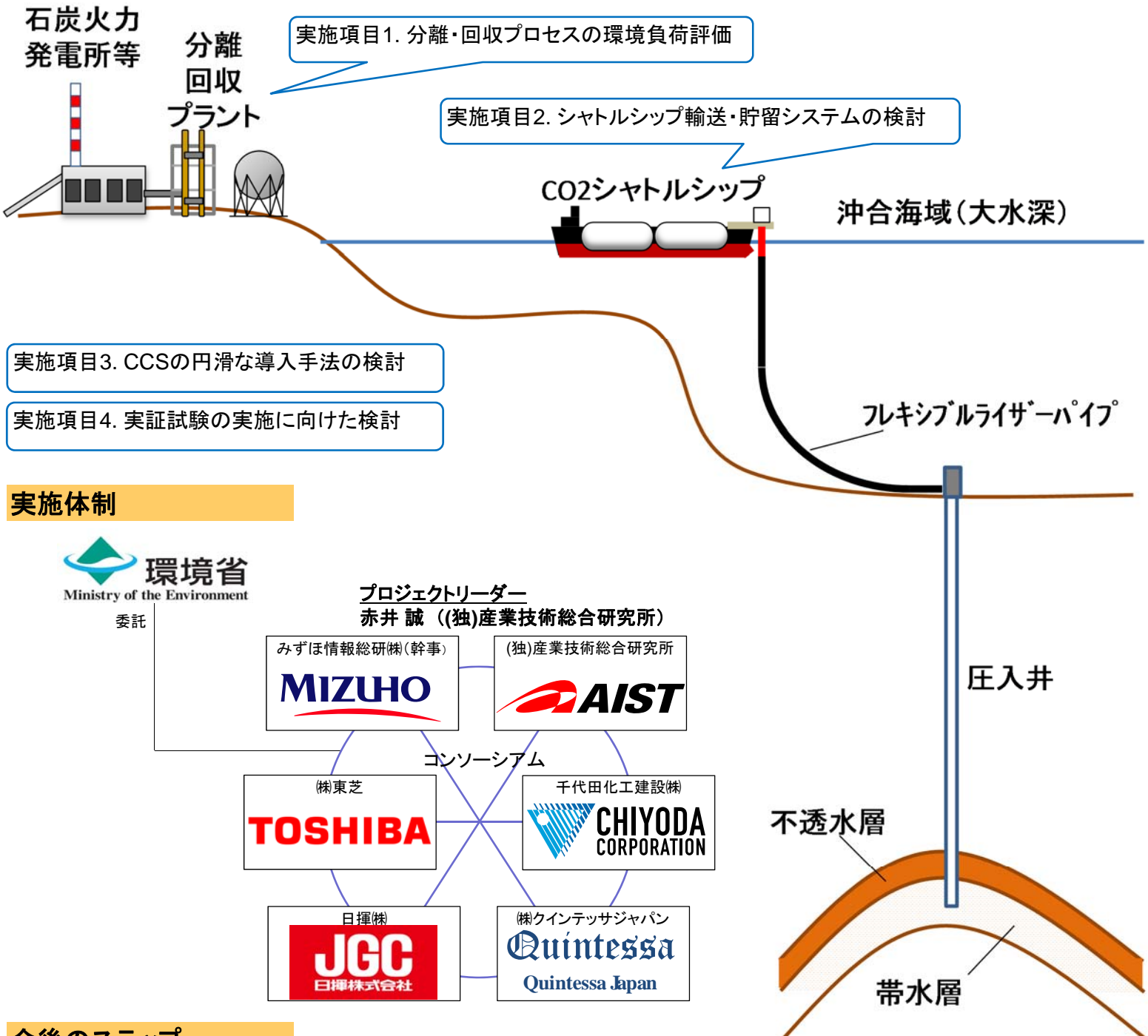
事業の背景

- 2050年温室効果ガス80%排出削減を実現するためには、徹底した省エネ・再エネの最大導入に加えて、**電力のゼロカーボン化**が必要不可欠。
- とりわけ、二酸化炭素を大量に排出し、長期間にわたって稼働が見込まれる**石炭火力発電所等**は、CCS（二酸化炭素回収・貯留）の導入が求められる。
- CCSの導入にあたっては、環境の保全に配慮しつつ、大規模排出源が全国各地に分散し、沿岸海域が高度に利用されている我が国の特性を踏まえて検討を進める必要。

事業の目的

- 沖合域における貯留や複数の排出源からの輸送を効率的に実現可能な技術として期待される、**シャトルシップを活用した輸送・貯留システムの要素技術及びトータルシステムの検討**を行う。
- 二酸化炭素の分離・回収に使われる**アミン系吸収液の環境負荷の評価の検討**を行う。
- CCSの円滑な導入手法（**政策・措置、社会受容性、経済性の評価等**）の検討を行う。

事業内容



実施体制

今後のステップ

石炭火力発電所等からの二酸化炭素の分離・回収、シャトルシップを活用した輸送、シャトルシップから海底下への直接圧入による二酸化炭素の貯留、さらにはモニタリングまで、**二気通貫した実証試験**の実施を目指す。